

さすがに11月に入ると、園庭の木々も色づき始め美しく紅葉した葉っぱが見られるようになりました。

先月にお約束したように、今月はお茶筌を振る練習をしました。生まれてはじめての経験で興味を持ったぞう組さんが随分がんばりました。小さい手に力がいりすぎではお茶碗のそこをシャリシャリ…と！でも初めてにしては上手に水滴をとばさないで泡も立って楽しい所作でした。お互いに泡の立ったお茶碗を交換し、お友達同志で顔を合わせて“おいしい”の一声でした。愛情のこもった特別の味だったのでしょ。この気持ちをこれからも大切にしたいと思っています。

* 11月のお干菓子

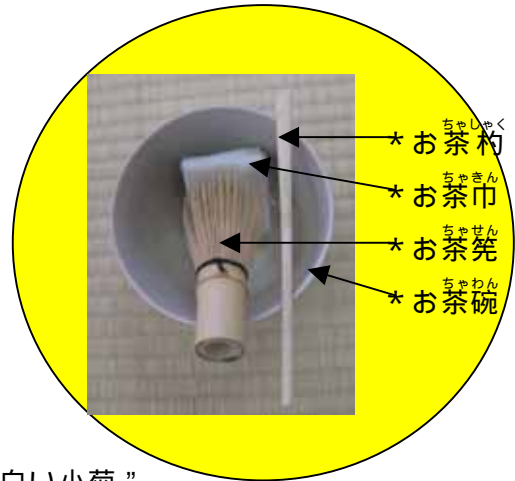


“ちどり”“もみじ”

* 11月のお花



園庭のつつじと桜の紅葉と白い小菊”



お茶筌を鉛筆を持つように下を向けて！



上の方をシャブシャブするの



お茶の歴史(2)「茶道のはじまり」

お茶が中国から伝わってぜいたくなものとして飲まれていたものを、室町時代に村田珠光^{むらたしゅこう}という人が、禅宗の精神にそった簡素で落ち着いた四畳半の狭い草庵^{そうあん}での茶(わび茶)を考え出されました。それを茶道として確立させたのが千利休^{せんりのきゅう}と云う人です。

千利休が「和・敬・清・寂」の目標を立てたお茶の心は、裏千家16代家元の現在に至るまで脈々として引き継がれています。

子供たちと一緒にお茶のおけいこを通して、少しでも“和敬清寂”のお茶の心を学び、きれいな気持ちで暮らしたいものです。